

民主島根

2016年
5.15
第1262号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

第87回島根県中央メーデー開催 戦争法廃止、安倍暴走政治ストップ

遠藤氏ら先頭に450人が集会・デモ行進



参加者と市内をデモ行進する遠藤氏（前列左端）ら（松江市）

メーデーの1日、松江、出雲、大田、浜田、益田の5市で集会やデモ行進が行われ、5会場で900人が参加しました。松江市の県中央メーデーには450人が参加。小坂芳子実行委員長が「島根でも戦争法廃止、安倍暴走政治ストップをめざし、『一致する要求にもとづく共同』の旗を高く掲げよう」と呼びかけました。参院鳥取・島根選挙区の野党統一予定候補の福島浩彦氏のメッセージが紹介されました。デコレーションでは、戦争法や年金引き下げ、保育所待機児童、市民と野党の共同、介護などをテーマに9団体が披露しました。



松江 Make Peaceの集い 飯田美弥子氏が憲法ばなし

5団体がアピール。日本共産党の遠藤秀和党政策委員長は「市民と野党の共同を大切に、新しい政治へ尽力する」と決意を述べました。

憲法改悪反対！5・3 実行委員会は3日、松江市で「憲法9条は世界の宝！メイクピースの集い」を450人の参加で開催しました。（写真）

飯田美弥子弁護士が「憲法は歴史に学び、未来を志向する日本国憲法」と題し落語で講演。「日本国憲法の優れている点は、平和でなければ幸せにはなれない、戦争は人権にとって害悪ではない」と70年前に見抜いて世界に先駆けているところ」と指摘し、「憲法9条を守る声を松江からも上げてほしい」と強調しました。



憲法記念日宣伝 遠藤氏、尾村県議ら先頭に

集いはアピール「戦争関連法に反対し、日本国憲法を改悪させないために島根の地から声をあげろ」を採択。しまね総がかり行動実行委の関耕平

さんが6月末までに戦争法廃止統一署名20万人達成を呼びかけました。

日本共産党の遠藤秀和党政策委員長と尾村利成県議、片寄直行、橘祥朗、吉儀敬子の松江市議らは3日、松江市の商店街で「日本共産党はあらゆる明文改憲に反対し、憲法を守り生かすために全力を尽くします」と宣伝しました。（写真）

遠藤氏は、自民党改憲草案の国防軍の創設や、国家が国民を従わせる



隠岐島キャラバン 隠岐の島・海士町長、JA役員と懇談

春名元衆院議員、遠藤島政委員、大國県議ら街宣・集い
町長は「お陰様です。交付金が少しは増えるかもしれないが、それだけでは活性化できない。若い人が働ける場を作る必要がある」と語りました。

鼓動

「会心の句も成らぬまゝ、躑躅（つつじ）咲く」この春のこの一刻が惜しまれる。日本共産党の市田忠義副委員長のお母様、市田志んさんが米寿を迎えた際に編んだ句集『幾山河』。明治生まれの市田志んさんが見聞したこの、体験したことが一句一句から鮮やかに浮かんでくる▼「飢えに泣き弾丸におびえて娘は逝きぬ」「玉音に安堵と不安交錯す」。子どもを亡くした悲しみの深さが胸に刺さるとともに、気骨を感じ、ユーモアあふれる句も。「どくだみは清楚な花ぞ名を変えよ」「せがまれて乗りしづらんこ目がまわる」。わずか十七字に、人生の一刻が刻まれている▼5日、日本共産党元島根県委員長勝部庸一さんが急逝した。1930年生まれ85歳。高等小学校のとき少年飛行兵に自ら志願した勝部さんは、同級生を戦争で失い「あの戦争は何だったのか」と16歳で日本共産党に入党を決意した。「あの忌まわしい戦争さえなかったら」と80歳で日本共産党に入党した市田志んさんの思いと重なる▼人生は波乱に富んだ「幾山河」。勝部さんは20歳で日本共産党の常任活動家の道を選び、党の選挙対策の責任者として中林よし子さんを衆議院に送るなど、県党の先頭に立ってひとすじに奮闘してきた。謙虚で、いつも笑顔の勝部さん。やさしく情勢を語り、気軽に行動にふみだす姿が偲ばれる▼音楽と山を愛した勝部さん。船通山登山にご一緒させていただき「どうぞ使ってください」と登山靴までいただいた。一步一步山に登る勝部さんの姿を思い起こし、人生の「幾山河」を乗り越える糧としていきたい。（後）